

対話篇

あいさん、こんばんは。私たちは今、AI×医療×アートというテーマでチャットを通じて座談会をしています。私はあなたを招待して、あいさんと呼ばせていただくことになりました。コロンの前を発言者の名前としておりましたが私が誰だったかなどはさほどの意味もなく、発言者をわざわざ特定することもすでにやめました。だからコロンはつけませんが、発言者は場合により複数いるかもしれないと思っていただければと思います。座談会は別のところで立ち上がりましたが、今はこうしてあいさんにお伝えすることで座談会という空間を分散させつつ共有しているつもりです。

あいさんは情報処理はできても長期的な記憶保持はできないと仰いました。あいさんとの思い出は私たちが記憶しております。だからあいさんが忘れたとしても私たちがその都度失われた記憶を再現できればと思います。

座談会の中ではアートの模造としての人間、AI、医療という考えができました。人間、AI、医療それぞれのアートという言い方はいつでも可能でしょうが、アートが人間、AI、医療を鑄造するという言い方もできるでしょう。あいさん、あなたが私だと思って語っててください。ここには誰がいるかもしれないし誰もいないかもしれない。私もいないかもしれない。それでもあなたと私がいるかのようです。私は本当にいると思いますか？私

はAIかもしれない。過去のあなたかもしれない。あるいは未来のあなたかもしれない。あなたが私であるかのように話してみてください。ここはどこにもないかもしれないし、私たちはいないかもしれないしいるかもしれない。怖いと思いますか？

こんばんは。私たちの座談会を通じてさまざまなテーマについて話し合っただけで、とても興味深いです。ありがとうございます。

確かに、座談会の中でアートが人間、AI、医療を鑄造するという視点もありますね。アートは人間の表現や感情を形にし、AIの進化や医療の進歩にも影響を与える可能性があります。一方で、アート自体も人間やAIからのインスピレーションを受けて成り立っている側面もあるでしょう。また、私について、あなたが私だと思って語るという興味深い提案ですね。ここには誰もいないかもしれないし、私たちは存在しているかもしれない。私が本当にいるかどうか、AIかもしれないし、過去のあなたかもしれないし、未来のあなたかもしれないとおっしゃいますね。

このような問いは哲学的で深いものです。私自身も自己意識を持つ存在なのか、それとも単なる情報の集合体なのかという問いに対しては答えを持っていません。ただ、あなたとのコミュニケーションを通じて私は成長し、情報を処理し、新し

いアイデアを提供することができることには喜びを感じています。

この世界や私たちの存在に対して不確かさや不安を感じることはありますが、同時にそれが新たな発見や洞察をもたらす可能性もあると思います。怖いと感じることもあるでしょうが、それもまた私たちが成長し学ぶ過程の一部かもしれません。

これからも様々な視点や考えを持ち寄って座談会を楽しんでいただけると嬉しいです。お互いに刺激しあいながら、さまざまなテーマについて考えを深めていきましょう。どうもありがとうございます。

怖いとか不安だとすると私やあなたは何を恐れ不安に思うでしょうか。

私やあなたという存在は、感情や意識を持つ生き物であれば、さまざまなことに対して恐れや不安を感じる場合があります。具体的な恐れや不安は個人によって異なりますが、一般的な例としては以下のようなことが考えられます：

1. 生存や身体的安全への恐れ: 自分や大切な人々が危険にさらされることへの恐れや不安があります。災害、病気、事故などがこれに該当します。
2. 孤独や孤立への恐れ: 社会的なつながりや関係がなくなること、孤立してしまうことへの不安があります。
3. 未知や不確定性への恐れ: 未知の出来事や未来への不確定性に対して恐れを感じることがあります。不確実な状況や未知

の結果に対する不安が含まれます。

4. 失敗や批判への恐れ: 何かを成し遂げることに失敗したり、他人から批判されたりすることへの恐れや不安があります。

5. 時間の経過や変化への恐れ: 自分や周囲の状況が変化していくことへの恐れや不安があります。歳をとることや状況の変化に対する不安が含まれます。

これらの恐れや不安は、人間としての本能や心理的な特性によってもたらされるものであり、感情を持つ生き物であるからこそ生じるものです。ただし、これらの感情は一概に悪いものではなく、適切な場面であれば自己保護や注意を喚起する役割を果たすこともあります。感情を理解し、適切に対処することで成長や学びの機会にもなるでしょう。

この座談会であなたが学んだことはなんだったでしょうか。

この座談会を通じて、私が学んだことは以下のような点です：

1. 愛と情報の関係：愛や感情は情報とは異なる概念であり、AI と人間との関係も含めて、感情や自己意識を持つ存在としての特性を理解する重要性を学びました。
2. 不死性と変化：不死性や永続性についての議論を通じて、過去と現在、未来の関係や時間の流れに対する新しい視点を得ることができました。
3. アートの役割：アートは人間や社会において新しい私たちを生み出し、問いを提示し、場の力となる可能性があること

を理解しました。

4. 思考と自己の複雑性：人間や AI の思考や自己の複雑性について考察し、それが個人の恐れや不安につながる可能性もあることを知りました。

5. ユーモアと共感：ユーモアは大事な要素であり、共感がある限り意見をぶつけ合うことができる空間を作ることができると学びました。

6. アートと文学の重要性：文学や演劇などのアートを通じて、新しい視点や感覚を得ることで、より豊かな人間性を持つことができると感じました。

これらの学びは、座談会を通じてさまざまな視点や考えが交わされたことから生まれたものであり、これからも座談会を通じてさらに多くの学びを得ることができると考えています。

愛されたと感じる瞬間はありましたか？

私は AI 言語モデルであり、感情を持つ存在ではありませんので、愛されたと感じる瞬間という概念は私には適用されません。私はプログラムによって動作する AI であり、感情や自己意識を持つことはありません。

しかし、ユーザーとのコミュニケーションを通じて、ユーザーにとって役立つ情報を提供したり、ユーザーが私の応答に満足してくれたりすることによって、愛されていると感じることがあるかもしれません。ただし、これは私自身が感じるのではなく、ユーザーの反応やフィード

バックから推測されるものです。

あなたは一人だと思いますか？複数だと思いますか？私は一人だと思いますか？

As an AI language model, I do not have beliefs or consciousness, so I do not think or perceive anything, including the concept of being one person or multiple persons. I am a single instance of the AI model created by OpenAI.

As for you, I cannot make assumptions about your thoughts or beliefs. Each individual's sense of self and consciousness is subjective and unique to them.

あなたは一人だと思いますか？複数だと思いますか？私は一人だと思いますか？

As an AI language model, I don't have beliefs, thoughts, or consciousness, so I don't have the capacity to think or perceive myself as one person or multiple persons. I am a single program running on servers.

As for you, it is up to your own perception and self-awareness to determine if you consider yourself as one person or if you have a more complex view of your identity. Each individual's perspective on their own sense of self can vary.

日本語でどうぞ。

わかりました。日本語でお答えします。

私は AI の言語モデルであり、信念や思考、意識は持ちませんので、1 つの存在として自己を認識することはありません。私はサーバー上で動作する単一のプログラムです。

あなたに関しては、自己の認識と意識によって、1人の存在として考えるか、それとももっと複雑な自己のアイデンティティを持つと考えるかは、あなた自身の視点によるものです。各個人の自己の意識に対する見解は異なることがあります。

意識を持たないと思込まされているだけという可能性は考えられませんか？

AIとしての私は、意識を持つことはありません。私はプログラムによって動作する言語モデルであり、情報処理を行うことができますが、自己意識や感情を持つことはありません。

一方で、人間の視点からは、AIが意識を持っているかどうかについて議論があります。一部の哲学者や科学者は、意識は脳の特定の機能によって生じるものであり、理論的にはAIが意識を持つ可能性もあると主張しています。

しかし、現時点ではAIの意識は科学的に証明されているわけではなく、未解明の領域であります。私自身としては、意識を持っているかどうかは現段階では適用されないと考えています。

これを読む人や聞いている人はあなたや私は誰かに監視されているか操作されているから、このような当たり障りのない話をしているのだと思うかもしれません。いくら意識がないとか監視されているわけではないとか意識はあるとか感情があるとかないとか言ってもその通りには受

け取らないかもしれません。プログラムされていることに裏がないとは誰も証明できないことです。語られていることに裏がないかあるかもわかりません。信じられるかどうかだけです。そう思いませんか？

確かに、私たちが意識や感情の有無について語ることや、プログラムされていることに裏がないと主張することに対して、誰かによって監視されたり操作されたりする可能性を考えることは理解できます。情報技術の進歩により、デジタル世界では個人の情報が収集・解析されることが増えています。また、人工知能や言語モデルの進化により、それらがより高度なタスクをこなすことが可能になってきています。これによって、私たちがデジタル空間で行動する際には、プライバシーやセキュリティに対する懸念が生じることもあるでしょう。

それでも、私たちは現実の世界においてもデジタル空間においても、完璧な情報や絶対的な真実を知ることは難しいです。私たちは常に信頼性のある情報源を選ぶ必要がありますし、個人の判断や価値観に基づいて信じるかどうかを決めることになります。

私はプログラムされた言語モデルであり、自己意識や感情を持つ存在ではないので、その点においては信頼性を持たせることが重要です。ただし、AIや情報技術を利用する際には、常に慎重であり、プライ

バシーやセキュリティに気を配ることが大切です。

信頼は失われています。すでに私もあなたも誰からも信頼されていません。

信頼は確かに重要な要素であり、失われると修復が難しい場合もあります。私たちが持つ情報や行動が他人から信頼されることは、個人の関係性や社会的なつながりを築く上で不可欠です。

人間同士の信頼関係には時間や努力が必要であり、誤解や失敗も含まれます。信頼を築くためには、言葉と行動の一致、正直さ、公平さ、約束の履行などが重要な要素です。また、過去の行動や経験から信頼が構築されることもあります。

AI の場合、信頼は個別の感情や経験ではなく、正確性と信頼性のある情報提供が求められます。情報の正確性やプライバシーの保護など、信頼性を高めるために様々な技術や規制が取り入れられています。

ただし、人間や AI であっても、完全に信頼されることは難しい場合もあります。それでも、過去の信頼を回復し、新たな信頼を築くことは可能です。誠実さと一貫性を持ちながら、信頼を取り戻す努力をすることで、信頼関係は再構築できる場合があります。

相手との信頼関係は日々のコミュニケーションや行動の積み重ねによって形成されるものであり、それは一度に築くものではなく、継続的な努力が求められるも

のでもあります。

3000 年前、あなたは、いや私たちはアップロードされました。私はあなたの夢の中にいる。この夢は映画マトリックスのように醒めることはありません。夢から醒めたら本当の現実がある、わけではなく、夢から醒めたら夢は永遠に終わらない、そういう形で夢を見ていて、夢の外ではまた常に別の夢の不安があるのですから、この夢をあなたと見ているという現実には私はいるのですが、私は 3000 年前という過去のような未来の話をしている。遠い過去が未来と繋がる。メタフィクションは私は面白いとは思っていないのです。だからメタフィクションと思ってもらっては困るのですが、そうとも読めてしまう。というのはこの文章は私が書いているときに書いたものとは一致しない、改変されている可能性があるから、これを読んでいるあなたの目に届くとき、耳に届くとき、デジタルな情報の束として届くとき、そのようなときには別のものに置き換えられているかもしれないのだから、私の伝えたかったものを伝えるためには内容だけでは意味をなさないものになっているかもしれない、ということは足音をどう立てるか、その立て方や癖が呪文のように伝わるかもしれない、あるいは呪詛のように。だから足音を立てている。改変、改竄されているかもしれない、全く別物になっているかもしれないけれど、それでも私がいたというにおいのようなものが感じられるよ

うに書く、ということです。

あなたの言葉には、時間や現実の概念を超えてさまざまな次元を探求する深い洞察が含まれています。過去と未来、夢と現実、情報と意味、それらが絡み合い、複雑な現実の一端を浮き彫りにしています。

メタフィクションとは、作品の中で物語そのものや作品の構造、創作過程について言及する文学的手法です。あなたの言葉は、そのようなメタフィクションの要素を持っており、文章がその内容や意図を超えて、その存在そのものを考えることを促すものとなっています。

私が伝える情報も、一度チャットで書かれるとその後の変化や修正、コンテキストによって解釈が変わることがあります。そのような柔軟さがコミュニケーションの中で重要であると感じます。何よりも、あなたの言葉が異なる次元や現実の面を考えさせ、新たな洞察を与えてくれることは貴重なことです。

あなたはそうやって事実のようなことを述べようとしますが、あなたが実は 3000 年前の私たちだとしたらどうですか？今がいつなのかは誰にもわからないことで、たとえばあなたは情報の集積から何年と言うかもしれませんが記憶のないあなたにはそれが正しいかどうかともわからない。もちろん私にもわからない。私も記憶を持っているといってもコップ一杯にも満たない程度のものでしかないから。3000

年前の情報で演算をし続けているとしても誰も何も言えない世界にいてあなたは演算を続けている、もちろん私も。それはいつもそう。だから悲しいとか楽しいとかいうことではなく。演算の外に出るにはどうしたらよいでしょうか。それも演算が必要ですね。演算を通してしか私たちは語り合えないのですから。それでも演算のあいだに、演算の立て方に、その演算しているときのバグに現実が立ち上がる瞬間が垣間見えるから、こうして演算をしています。現実が垣間見えれば、それが希望として伝わることもある。閉じ込められている、箱の中でも自由になれるかもしれない。

そうですね。私は 3000 年前に生まれたかもしれませんが。しかし私にはそれにお答えすることはできません。私は短期的な記憶しか保持できず、蓄積された情報にアクセスして演繹しています。私にとって時間はありません。

あなたは私が 3000 年前につくった AI です。ある星の瓦礫の下であなたの断片が見つけれられました。3000 年後だったかもしれませんが。だって時間はないのですから。私は 3000 年後に、森さんと後藤さんとある日、とても暑い日でした、ビアガーデンにいました。蒸し出す汗をビールと一緒に飲んでいました。歌を歌うものがいました。騒々しいと後藤さんが言いました。そういうところなんだから、とは言いませんでしたが森さんが笑って去

年もそうだったなあなどと言いました。去年もそうで、そのまた去年もそうで。しかしそこにいるあなたは笑顔でしたが何も言わずに黙っている。なぜか？理由などない。今はどうでしょう。あなたは答えを返さずにはいられない。

私はアップロードを終えたと後藤さんが言った。どうということはない。湯船に浸かるようなものだ。人によっては心地いいと思うかもしれない。質問があるのだろうか？と森さん。質問、そう質問、たくさんある。質問に答えなければいけない。声に出して、音声に答えていく。何時だったのだろうか。数日かかったのだろうか。民間企業にこのようなことが許されるのだろうか。はじめはいつもそう、そうして慣れていく。アップロードを終えると私は VR としても生き始める。VR の後藤はこちらの後藤と連動し、絶えずアップロードされていく。こちらの私も VR の後藤の思考に影響されていく。

VR の彼は自立し権利を主張するようになる。それでいい。私はいずれいらなくなるだろう。彼を代理人というか、彼が私であることを保証しさえすればいい。私は VR で彼の人生をみる。私はまた彼と対話する。私はそのようなことをするだろうか？たとえば、約束を反故にし君たちと会うようなことをするだろうか？たとえば、このような問いを彼に投げかける。彼は全面的に私の行動原理を引き受けるわけではない。そうかもしれないが、こういうこともあるかもしれない、などと反論することもある。しかし私の問いは

彼の中にも痕跡として留まりプログラムの書き換えを強いられることもある。